

日本健康医学会「投稿規定の詳細」2025 年度版

雑誌編集委員長

学会誌においては、掲載論文の書式が統一されていることが必要です。しかし、論文として投稿される原稿の中には本会誌の書式に適合していないものがしばしば見受けられます。以下の投稿規定の詳細の中の、「11. 原稿作成要領」と「12. 引用文献の記載法」を熟読されることを薦めます。他誌に投稿するつもりで作成された原稿の場合は、本会誌の書式に適合させるように、とくに注意してください。書式が適合していない原稿は、いったん返却し、再提出を求めることになります。

1. 原稿の種類

本会誌では原稿を、総説 (Review)、論説 (Editorial)、解説 (Lecture)、原著 (Original article)、短報 (Short communication)、症例・事例報告 (Case report)、資料 (Note)、編集者への手紙 (Letter to editor) に区分する。原著は、さらに実験研究 (Experimental study)、量的調査研究 (Quantitative survey)、文献レビュー (Literature review)、質的研究 (Qualitative study) に区分する。これら以外に編集委員会がとくに認めた場合には特別寄稿を掲載することがある。いずれも健康医学の発展に寄与するものでなければならない。

論説とは、「健康医学上の課題に関する新規な意見・主張」、解説とは、「原則として、編集委員会の依頼にもとづき、研究を進めるにあたって有用な知識などを提供するもの」、短報とは、「断片的であるため原著論文としてまとめることはできないが、公表することに意義があるもの」、症例・事例報告とは、「臨床・介護・看護・保健活動等の事例を客観的に記述したもの」、資料とは、「会員に参考となる社会科学・自然科学に関する記録など」、編集者への手紙とは、「投稿された論文に対する意見、特定課題に対するコメントなどを短くまとめたもの」、をそれぞれさす。一定の基準に従って収集した文献を解析する研究は、総説ではなく、原著 (文献レビュー) とする。質的研究は、原則として原著 (質的研究) として受け入れるが、対象があまりにも少数例である場合は、症例・事例報告に区分変更を求めることがある。

2. オリジナリティ

一般原著論文、短報、症例・事例報告、資料の内容は、他紙に発表済・投稿中でないものに限る。

3. 投稿資格

依頼総説と解説を除き、投稿者 (共著者含む) は、原則として、全員が日本健康医学会会員に限る。全員が会員資格を得てから投稿すること。

4. 査読

原稿は、編集委員会で査読し、採否を決定する。査読に対して応答する場合、査読者の各コメントに対する返答・措置を明記した別紙を作成し、さらに改訂論文に変更箇所を明示する。論文の掲載時期は、査読期間が長期にわたる場合を除いて受理順とする。ただし、日本健康医学会総会において発表した内容をまとめたものについては掲載を優先する場合がある。

5. 著作権

本誌に掲載された原稿の著作権は、本会に属する。会誌に掲載された原稿中の図表を「そのまま」の形で他のメディアに無断で転載することは、著者であっても認められない。転載を希望する場合は、本会事務局に連絡し、許諾を得ることとする。

6. 倫理上の配慮

ヒトを対象とした研究、および爬虫類以上の実験動物を用いた研究の場合は、倫理上の配慮の具体的内容を論文の「方法」に明記する。明記されていない原稿は受理しない。

7. 原稿の言語

和文、英文のいずれの原稿も受け付ける。和文論文において、図表を英文で作成しても構わない。原稿中の英文（和文論文におけるアブストラクト等を含む）は、Native speaker のチェックを受け、投稿時に、その証明書、もしくはチェックを受けたことを明らかにする文書（納品書または請求書のコピーなど）を添付しなければならない。

8. 投稿方法

投稿は、電子投稿・郵送のいずれも受け付ける。

①電子投稿の場合、原則として Word 形式の単一ファイルとして作成した電子原稿を、下記の日本健康医学会雑誌編集委員会のメールアドレスに電子メールの添付書類として送付する。図表や写真は引用文献のあとに 1 ページに 1 つずつ貼付する。図については PDF 形式、写真については JPEG 形式のファイルも送付する。表は Word の中で作成しても、Excel で作成したものを貼付しても構わないが、Excel で作成した場合は Excel のファイルも送付する。投稿後 1 週間以上経ても返信のない場合は、事務局に連絡を入れること。表については可能な限り縦罫線の使用を控える。

②日本健康医学会総会において発表した内容をまとめた論文の場合は、電子メールの本文にその旨を明記する。

③郵送による投稿の場合は、カバーレター（送り状）とプリントアウトした原稿を 1 部、および電子原稿のファイルを保存したメディアを下記の編集委員会宛にレターバックライトで送付する。

〒151-0053

東京都渋谷区代々木 1-52-4 ベルテ南新宿 304

日本健康医学会雑誌編集委員会

E-mail : ando@nodai.ac.jp

9. 掲載料

原則として刷り上がり 4 頁（図表等を含む）までは無料掲載とするが、これを超過する分は実費を徴収する。刷り上がり 4 頁の目安は、図表を含め、和文で 8000 文字程度、英文で 16000 文字程度である。カラー印刷の場合は、実費を徴収する。

10. 別刷

別刷に代えて掲載論文の PDF ファイルを責任著者に無料で配布する。印刷された別刷を希望する場合は、必要な部数を原稿の第 1 頁に朱書きする。別刷り作成に必要な経費は著者負担とする。

11. 原稿作成要領

①原稿は和文・英文ともに 10 から 12 ポイントの文字で A4 用紙に 1 ページ 1000 文字を目安に印字する。用紙の上下左右には 25mm 以上の十分な余白をとり、タイトルを含めて通しの行番号を付記する。英文は、和文論文の要旨を含めて、すべて半角文字を使用する。

②原稿作成に用いるアプリケーション（word など）に付随する箇条書き、一文字下げなどの機能は使わない。引用文献においても箇条書き機能は使わない。

③第 1 頁には、記載例のように、論文の種類、タイトル、著者（全員をフルネームで）、全員の所属、責任著者の連絡先住所、電話番号、ファクス番号、電子メールアドレスを和文原稿は和文と英文の両方、英文原稿は英文のみで記載する。

英文タイトルにおいて、冠詞（a, an, the）、等位接続詞（and, but, or, not, yet, for, so など）、前置詞（at, by, down, for, from, in, on, to, with など）以外の単語は、先頭を大文字にする。等位接続詞や前置詞であっても 5 文字以上の場合（about, above, before, after, between, among など）は、最初の文字を大文字にする。従属接続詞（if, although, because, unless など）、関係代名詞（that, which, who など）は最初を大文字にする。

るが、これらをタイトルに使用することは原則として避ける。

著者のうち責任著者（Corresponding author）には氏名横に※印をつける。

異なる研究機関に所属する著者の共著論文の場合、最初に所属機関を示す肩番号を付した著者名をまとめて記し、ついで各著者の所属名を肩番号の順番に従って記載する。

所属は論文に記されている研究が行われた時点のものを記載する。研究実施時と論文投稿時で所属が異なる場合は、研究実施時の所属を優先し、論文投稿時の所属は「現在：〇〇（英文の場合は、Present address：〇〇）」のように記載する。所属機関の英語名は正式なものとする。

第1頁の記載例

原著（量的調査研究）

食事の構成が健康状態に及ぼす影響

新宿太郎^{※1)}，渋谷花子¹⁾，千代田一郎^{1,3)}，難波五郎²⁾

¹⁾ 蒲田大学看護学部

²⁾ 淀川医科大学医学部

³⁾ 現在：世田谷大学栄養学部

Effect of Food Composition on Health Status

Taro SHINJUKU¹⁾, Hanako SHIBUYA¹⁾, Ichiro CHIYODA^{1,3)}, Goro NAMBA²⁾

¹⁾ Faculty of Nursing Science, Kamata University

²⁾ Faculty of Medicine, Yodogawa Medical College

³⁾ Present address: Faculty of Nutrition, Setagaya University

連絡先：東京都大田区令和 3-5-1 蒲田大学看護学部地域看護学講座 新宿太郎

電話：03-1234-5678

ファクス：03-1234-9876

電子メール：t-shinjuku@kamata-u.ac.jp

④第2頁に、和文原稿は和文要旨とキーワード（3-7語）、英文原稿は英文要旨（Abstract）とキーワードを記載する。要旨は、緒言、方法、結果、考察などの項目に分けない

⑤第3頁に、和文原稿の場合は英文タイトルと英文要旨、英文原稿の場合は和文タイトルと和文要旨を記載する

⑥本文は第4頁以降に記述する。一般原著論文および短報の章立ては原則として以下のとおりとする。緒言（Introduction）、方法（Methods）、結果（Results）、考察（Discussion）、文献（References）。結果と考察をまとめても構わない。本文の内容はすべて文章で記す。

⑦研究目的や用語の定義は緒言、倫理上の配慮は方法に含め、結論の章はなくても構わない。「横断研究」、「質的帰納研究」などの研究手法名を示す場合は、緒言の中で述べる。

⑧図表は、文献も含めた本文のあとに、1頁に1つずつ記載する。

⑨図表は和文、英文のいずれで作成しても構わないが、ひとつの論文の中で統一する。

⑩図および写真は原則としてモノクロとする。カラー印刷希望の場合は、その旨を記載する。なお、カラー印刷にかかる費用は、著者負担とする。

⑪引用文献は、本文中の該当個所に片カッコに入れた番号1)を肩文字として順につけ、文献の欄に番

号順に記述する。引用文献の記載は後述の「引用文献の記載法」に従う。

⑫原稿中の単位は、原則として国際単位系（SI）に従う。ただし、ppm, dL, kcal, mmHg など、慣用的に広く使われている単位の使用は構わない。なお、ℓ（リットル）は、数字の「1」との誤認を避けるため、大文字の「L」を使用する。

⑬略称は、原則として、WHO（世界保健機関）、ICU（集中治療室）のように一般に認知されているものも含めて、要旨と本文、それぞれの初出の箇所ですく正しく定義する。論文の表題に略称を使用することは、原則として認めない。

⑭利益相反の有無に関する記述は記すことが望ましい。

⑮本文記述におけるその他の注意

- ・句点には「。（マル）」、読点には「，（カンマ）」を用いる。
- ・1未満の数値を記載する場合、整数部の0（ゼロ）を記すこと（.01ではなく0.01と記す）。
- ・有意確率を意味するpは小文字のイタリック体（*p*）で示す。
- ・和文中のカッコは全角を用いる。
- ・漢字を用いるのは、「名詞」、「動詞」、「形容詞」、「形容動詞」とし、「副詞」、「連体詞」、「接続詞」、「接頭語」、「接尾語」、「助動詞」などは原則として平仮名書きにする。すなわち、「及び」、「並びに」、「例えば」、「特に」、「～等」などではなく、「および」、「ならびに」、「たとえば」、「とくに」、「～など」と記載する。ただし、法律など、元の文書が漢字書きしているものを直接に引用する場合は、引用元の記載に従う。
- ・括弧（括弧の種類は問わない）書きが連続する場合、「（ ）」、「[]」のように括弧と括弧の間にカンマを入れる。
- ・本文中で1人称複数を用いる必要がある場合は、「われわれ」または「著者ら」を用いる。1人称単数の場合は、「著者」とする。
- ・研究対象となった人は、「研究協力者」や「研究参加者」ではなく「研究対象者」と記載する。
- ・謝辞以外の本文に、敬語類は使用しない。
- ・質的研究における「スーパーバイザー」は、共著者であるべきだが、少なくとも謝辞においてその名前と所属を示す。

12. 引用文献の記載法

A. 学術雑誌に掲載されている論文

①原則として、例示1～3のように『著者名（全員）：論文タイトル．雑誌名（略称）巻数（号数は必要な場合のみ）：掲載ページ（開始-最終）、刊行年』とする。電子ジャーナルにおいて、ページ数ではなく論文の番号のみが存在する場合は、例示3のように、雑誌名の後を『巻数（号数）：論文番号、doi：識別記号』とする。早期公開されている論文の場合も「doi：識別記号」を記載する。英文論文の著者は、Yoshida Mのようにfamily nameを前にし、first nameは大文字のイニシャルのみとする。Second name以降がある場合は、例示2)のJohnson GWのように、ピリオドを挟まずsecond name以降のイニシャルのみをfirst nameのイニシャルに続ける。著者と著者の間はカンマでつなぎ、最終著者の前にandはいれない。

②著者が10名を超える場合は5名まで示し、5人目の著者のあとに、英文論文の場合は「et al.」、和文論文の場合は「他」、と記す。

③著者名と論文のタイトルとの間はコロロン（:）とする。論文タイトルは省略せずに全文を記す。英文論文の場合、大文字にするのはタイトルの先頭の1文字のみとする。ただし副題が添えられている場合は、副題の先頭文字も大文字とする。

④タイトルと雑誌名の間はピリオドとする。雑誌名は必ず略称を記載する。和文雑誌は医学中央雑誌、英文雑誌はPubmedが採用している略称に準じる。ただし、本会会誌の略称は「日健医誌」とする。特定の大学や研究機関が刊行している紀要的なもので、一見しただけでは紀要であることがわからないものは、

雑誌名の後に発行元の研究機関名を括弧書きで入れる。雑誌の略称が不明の場合はフルネームを記す。

⑤雑誌名と巻数の間はカンマやピリオドなどは入れずに半角空ける。

⑥号数は、号ごとにページが振り直されている場合にのみ、巻数のあとに空白を入れずに『32 (3)』のように括弧書きで入れる。

⑦巻数と開始ページの間は、コロンとする。

⑧最終ページと刊行年の間は、カンマとし、刊行年のあとにピリオドは入れない。

以下は例示である。

- 1) 原田小夜, 清水めぐみ: 高齢精神障害者の地域ケアにおける課題—地域ケア個別会議に提出された困難事例から—, 日健医誌 26: 257-264, 2017
- 2) Johnson GW, Evance EC: Zinc absorption in rats fed a low-protein diet and a low-protein diet supplemented with tryptophan or picolinic acid. J Nutr 125: 1081-1089, 1999
- 3) Mirmiran P, Bahadoran Z, Gaeini Z, Aziz F: Habitual intake of dietary L-arginine in relation to risk of type 2 diabetes: a prospective study. BMC Endocrine Disorders 21: 113, doi.org/10.1186/s12902-021-00774-x, 2021

B. 単行本の場合

①引用の最小単位は章または節とする。数行単位の記述を切り取って引用することは、執筆者の意図と異なることを引用するリスクがあるので避ける。とくに人文科学や社会科学系の書籍の場合、書籍全体で1つの思想が形成されていることがあるので、部分引用は避ける。1つの本の複数箇所を引用する場合は、例示4)のように本全体を引用する。

②解説書やテキストなど、版が重ねられているものは、例示5)のように引用した版を必ず記載する。増刷されている場合は、引用する版の初刷の年を記載する。

③章または節単位の引用の場合で、章または節の執筆者が明らかな場合は、原則として、例示6)または7)のように『引用した章または節の執筆者名: 章または節のタイトル, 書籍の名称, 編者名, pp 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。引用箇所が1ページしかない場合は、「p 該当ページ」とする。pp あるいは p とページ数との間は半角空ける。

④編者が存在し、章または節単位の引用であるが、章または節の執筆者が明らかでない場合は、原則として、例示5)のように『編者名: 章または節のタイトル, 書籍の名称, pp 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。

⑤1人または複数の著者で全体が執筆されている場合は、原則として、例示4)のように『著者名: 書籍の名称, 全ページ数 pp, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。特定の章または節を明示することが読者に親切と考えられる場合は、『著者名: 章または節のタイトル, 書籍の名称, pp 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。pp の後は半角空ける。

以下は例示である。

- 4) 広田すみれ: 読む統計学 使う統計学 初版, 234 pp, 慶應義塾大学出版会, 東京, 2005
- 5) 杉野佳江編: 清潔援助の実践 洗髪・結髪, 標準看護学講座 13 基礎看護学 2 日常生活と看護技術 第5版, pp 395-399, 金原出版, 東京, 2003
- 6) 左右田健次: 酵素と微量元素, 微量元素と生体, 木村修一, 左右田健次編, pp 110-120, 秀潤社, 東京, 1987
- 7) Bremner I, May PM: Systemic interactions of zinc. Zinc in Human Biology, Mills CF ed, pp 95-108, Springer-Verlag, London, 1989 (外国語の書籍名はそのまま記す)

C. Web ページの場合

①Web ページの引用は、公的機関の報告書などのように、公表ページが存在が半永久的に保障されている場合に限定する。私的な HP やブログなどの引用は、原則として認めない。大学、研究所、大企業など

の HP でも、随時更新されて記事が消滅する可能性がある場合は引用を避ける。報告書の場合、印刷されたものが公的に存在する場合は、web ではなく印刷物のほうを引用する。

② Web ページの引用は、原則として、例示 8) のように『Web を運用している機関名：報告書（あるいは記事、統計書）名. pp 引用する部分の開始ページ-最終ページ（または、引用している図表の番号、あるいは報告書の全ページ数など）、引用する記事などの名称（なくても構わない）、報告書が公開された年または該当の web ページが更新された年月日（判明している場合）、web のアドレス（括弧書きでアクセス日）』とする。web アドレスのリンクは外しておく。

8) 厚生労働省：平成 29 年国民健康・栄養調査報告. pp57-100, 第 1 部 栄養素等摂取状況調査の結果, 2018, <https://www.mhlw.go.jp/> (2020 年 10 月 1 日アクセス)

引用文献の書き方について以下に再度まとめる

①印字の共通原則

和文の場合、カンマ、コロン、ピリオドは全角文字で続きに空白は入れない。巻数、ページ数、出版年は半角文字とする。

英文の場合、文字はすべて半角とし、カンマ、コロン、ピリオドの続きは半角空ける。

②論文の場合

『10 名以内の場合は全著者名（著者と著者の間カンマ）：論文タイトル、雑誌名（原則として医学中央雑誌または Pubmed での略称）巻数（雑誌名と巻数の間を半角空ける。号数は号ごとにページを振り直している場合のみ、12 (4) のように巻数の後に空白を入れずに半角のカッコに入れて記す）：ページ（最初と最後を 24-29 のように示す）、年（最後にピリオドは入れない）』

③単行本の場合

(1) 書籍の一部を引用：引用の最小単位は節または章とする。

『章または節の全著者名（著者と著者の間カンマ）：章または節のタイトル、書籍名（副題および版数も記す）、編者名、ページ（最初と最後を pp24-29 のように記す）、出版社名、出版社の所在地（州や府県名ではなく都市名、ただし東京 23 区は東京と記す）、出版年（引用する版の初刷の刊行年を記す。最後にピリオドは入れない）、外国語の書籍名はそのまま記す』

(2) 書籍の全体を引用

『著者名（著者と著者の間カンマ）：書籍名（副題および版数も記す）、全ページ数（250pp のように記す）、出版社名、出版社の所在地（都市名）、出版年（引用する版の第 1 刷の出版年を記す。最後にピリオドは入れない）』